

木材の利用推進と木育の実施について

令和2年6月12日（金）に、秋田県スポーツ科学センターにて開催された「令和2年度第1回総合型クラブサミット」において、木材を利用した「クップ」の紹介を行いました。

このサミットは、秋田県広域スポーツセンターが主催となり、総合型地域スポーツクラブ関係者、各市町村スポーツ推進委員、各市町村スポーツ主管課担当者などを対象とし、総合型クラブを介した地域のスポーツ振興を目指すとともに、総合型クラブの活性化を図るために開催されたものです。

「秋田杉を利用したスウェーデン発祥のニュースポーツ」として、クップを参加者の皆さんに体験していただきました。クップはスウェーデン語で薪を意味しており、バイキングが薪を投げて遊んでいたものが発祥されたといわれています。



リレーのバトンのような木棒のカストピナを投げて、相手チームのクップ（木片）5本をまず倒します。全部倒した後に中央のキングを倒すと勝利！という的あて、陣とりゲームです。

地元の木材を活用したクップが全国各地で作られており、能代七夕の灯籠のシャチをイメージした地元クップを製作していただいたものを使用しました。

当日は45分間という短い時間でしたが、参加者43人の方々に実践していただきました。通常ルールと促進ルールの2つのパターンを練習してもらいました。さすが日々スポーツに触れていらっしゃる方たちなので、すぐルールを理解していただき楽しんでプレイされていました。通常は、クップを倒した際などはハイタッチが必須ですが、今回は新型コロナウイルスの感染防止のためエアーハイタッチ・拍手で喜びをわかちあってもらいました。



短い時間だったので、皆さんからは遊び足りないとの声がたくさん聞かれました。

また、「私の市にも講師としてきてほしい」「クップを借りたい」などの声をたくさんいただきました。それに秋田杉で製作したクップをさわることで、皆さんに木のぬくもりも伝えることができました。この場で体験していただいたクップや木のぬくもりを、参加者の皆さんを通じて広めてもらえたらと思います。今後もこのような機会があれば、積極的に参加し、クップを通じて木のぬくもりやその活用方法などについて、広くお伝えできればと思います。